

# 1 章 問題意識

## 1. はじめに一問題意識

企業が直接雇用している社員は、大きく正社員と非正社員に分けられる。非正社員とは、パートタイマー、アルバイト、契約社員、嘱託社員と呼ばれている人たちである。また、正社員にも、職務の違いや異動（特に転勤の有無）の範囲の違いによって総合職と一般職、あるいは全国社員と地域限定社員・エリア社員という社員区分を設けている企業がある。そして、1980年代後半以降、非正社員の数と比率が着実に増えてきている。たとえば、総務省「就業構造基本調査」によれば、全雇用者に占める「正規の職員・従業員」（「正社員」と呼ぶ）の割合は、1987年には74.9%、1997年には70.1%、2007年には7割を割り64.4%、2011年で61.8%、さらに、2020年には6割を割り58.4%になり、一貫して正社員が減少し、これと対照的に非正社員が増加している。

さらに、社員と同じように働きながら、その企業と直接的に雇用関係にない形態もある。派遣労働者は他社の社員の身分のまま派遣先企業の指揮下で働いているし、さらに、最近では、自社の指揮命令下でない人が自社内で働く請負型の労働力（請負労働者）が登場してきている。この他、最近では、ノウハウを蓄積すべきコアの業務を自社で行い、それ以外をアウトソーシングする企業も増えてきている。そのため、企業活動は、現在、正社員（総合職・一般職あるいは全国社員・地域限定（エリア）社員）、パートタイマー、アルバイト、契約社員、嘱託社員、派遣労働者、内部請負、外注・アウトソーシングなど、様々な労働力によって支えられて、特に、非正社員の内訳をみると、パートタイマーとアルバイトの構成比率が高くなっている。さらに、契約社員の構成比率はパートタイマーやアルバイトと比較すれば小さいが、近年はパートタイマーやアルバイトを超えるスピードで増えてきている。

このことは、企業にとっては、非正社員なくしては企業経営が成り立たないことを示している。特に、正社員に近い働き方をしていると考えられる「勤務年数が長く、かつ、労働時間が長い非正社員」は、新型コロナウイルスの影響が収まった後に必ず来るであろう「人手不足時代」を企業が乗り切るために必要不可欠な存在である。しかしながら、こうした正社員に近い働き方をしていると考えられる非正社員のなかで、社会的な経験が豊富な40歳以上60歳未満の非正社員で、かつ、勤務年数が長く、かつ、労働時間が長く、勤務先での呼称が非正社員（以下、「中高年非正社員」と呼ぶ）が高齢期に向けてどのような意識を持っているのか、さらに、どのような職業生活設計を持っているのかを明らかにした調査研究は多くない。

高齢者雇用の課題を検討するに当たっては、従来、定年制が適用される正社員を前提として論じられることが多かった。一方、非正社員は高齢期に至るまでのキャリアの推移が正社員に比べて多様であり、仕事と生活との関係、社会保険加入状況等にも個人差が大きい。非正社員の場合、定年による大きな労働条件の変更など年齢によるギャップを経験することが少ない。正社員に比べて年齢による働き方の変化が緩やかな中で、長く働き続けるために求められていることは何か、非正規雇用で働く者の意識やニーズを明らかにすることも重要であろう。

そこで、本調査では、正社員に近い働き方をしていると考えられる中高年非正社員の意識や認識を探り、高齢期における活躍に向けて有効な人事管理施策について考える手がかりを得ることを目的に実施した。特に、これまであまりデータの蓄積がなかった中高年非正社員の高齢期に向けた意識と職業生活設計に焦点を当て、中高年非正社員の就業継続と戦力化の方策について検討することを課題とした。

さらに、近年の働き方改革で問われるようになった「同一労働同一賃金」（「正社員と非正社員の間での不合理な格差の解消」）に代表されるような「正社員と非正社員の処遇均衡・処遇均等」の問題がある。このことは異なる働き方をする労働者間の均衡・均等に配慮した雇用管理や報酬管理を構築することに迫られていることでもある。さらに、働き方改革では、継続雇用制度に基づいて、非正社員として働いている60歳代前半層についても、企業は正社員との処遇均衡・処遇均等が求められるようになった。では、正社員に近い働き方をしていると考えられる

「中高年非正社員」からみて、企業が「中高年非正社員」に対してどのような人事管理を行っているのか。この点を明らかにした調査研究は少ない。本調査では、こうした点についても研究課題に挙げており、調査結果を踏まえて、今後の企業の人事管理（異なる働き方をする労働者間の均衡・均等に配慮した雇用管理や報酬管理）の方向性を提示する。

## 2. 調査の概要

### (1) 調査の目的と問題意識

人生 100 年時代を迎え、企業においても定年延長や雇用上限年齢の引き上げへの機運が高まっている。高齢社員の活躍が一層求められる中で、「現役」の正社員に近い働き方をしていると考えられる中高年非正社員は 60 歳以降の高齢期の働き方についてどのように考え、自身の職業生活をどう展望しているのだろうか。

本調査は、正社員に近い働き方をしていると考えられる中高年非正社員の意識や認識を探り、60 歳以降の高齢期における活躍に向けて有効な人事管理施策について考える手がかりを得ることを目的に実施した。特に、これまであまりデータの蓄積がなかった正社員に近い働き方をしていると考えられる中高年非正社員による 60 歳以降の高齢期に向けた意識と職業生活設計に焦点を当て、中高年非正社員の就業継続と戦力化の方策について検討する。

### (2) 調査方法と設計（抽出方法）

調査は、WEB モニターに対するアンケート調査で実施した。

1 次調査(スクリーニング)は 2018 年 12 月 19 日～2019 年 1 月 5 日に実施した。40～59 歳の民間企業に勤務し、職場で非正社員という呼称で呼ばれている者（ただし、勤務先の業種については農業、林業、漁業、公的機関、宗教を除き、本人の職種については専門的職業のうち医師、歯科医師、看護師、助産師、弁護士、公認会計士、税理士を除く）で、かつ、「現在の勤務先での勤務年数が 5 年以上で、かつ、週 20 時間以上働いている者」を抽出した。

2 次調査（本調査）は 2019 年 1 月 11 日～28 日に実施した。調査対象の割付は、上記の抽出条件に該当する者の中から、各年齢区分（「40～44 歳」、「45～49 歳」、「50～54 歳」、「55～59 歳」の 4 区分）1,000 名を目標とし、計 4,113 名（うち、男性 1,001 名、女性 3,112 名）から回答を得た。

### (3) 分析軸と回答者の属性

#### ①分析の軸

本報告書で明らかにしたいことは 2 つある。1 つは、企業経営を支えている正社員に近い働き方をしていると考えられる 40 歳以上の中高年非正社員の高齢期に向けた意識と職業生活設計に焦点を当て、中高年非正社員の就業継続と戦力化の方策について明らかにすることである。

もう 1 つは、中高年非正社員からみて、勤務先の企業が非正社員に対してどのような人事管理を行っているのか、を明らかにすることである。

そのためには、どのような変数で、正社員に近い働き方をしている非正社員として捉えるのか、を考えることが必要になってくる。

本報告書では、正社員に近い働き方をしている非正社員を「現在の勤務先での勤務年数」、「働いている時間（平均的な週の労働時間（残業時間を含む）」と「現在就いている仕事内容（「就いている仕事と正社員の仕事内容との関係）」、の 2 つから捉えることとする。勤務年数が長く、働く時間が長い者ほど、正社員に最も近い働き方をしている非正社員と考えることができる。

現在の勤務先での勤務年数は「5年以上10年未満」が46.0%、「10年以上15年未満」が30.9%、「15年以上20年未満」が15.8%、「20年以上25年未満」5.0%、「25年以上30年未満」1.6%、「30年以上」0.8%であり、「10年未満」と「10年以上」で、半数ずつを占めている（図表1を参照）。

図表1 現在の勤務先での勤務年数

(左段：件数、右段：行%)

		調査数	5年以上10年未満	10年以上	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満	25年以上30年未満	30年以上
全体		4113	46.0	54.1	30.9	15.8	5.0	1.6	0.8
性別	男性	1001	52.5	47.5	25.6	12.8	5.2	2.1	1.8
	女性	3112	43.8	56.1	32.6	16.7	4.9	1.4	0.5
年齢	40～44歳	1045	52.2	47.8	28.9	14.3	4.3	0.3	0.0
	45～49歳	1210	47.9	52.0	32.2	13.6	4.5	1.4	0.3
	50～54歳	1003	41.9	58.2	33.8	15.5	5.6	2.4	0.9
	55～59歳	855	40.4	59.6	28.2	20.9	5.7	2.3	2.5
従事している仕事	管理的な仕事	42	38.1	61.9	21.4	21.4	9.5	4.8	4.8
	専門的・技術的な仕事	254	45.3	54.8	30.7	14.2	6.3	1.6	2.0
	事務的な仕事	1101	40.5	59.4	33.9	18.3	4.5	2.0	0.7
	販売の仕事	815	40.9	59.1	34.2	18.2	5.2	1.3	0.2
	サービスの仕事	613	52.2	47.8	29.2	11.7	4.6	1.8	0.5
	保安の仕事	57	57.9	42.2	24.6	12.3	3.5	0.0	1.8
	生産工程の仕事	476	52.9	47.0	25.6	14.9	4.8	0.4	1.3
	輸送・機械運転の仕事	79	58.2	41.9	24.1	11.4	3.8	1.3	1.3
	建設・採掘の仕事	20	40.0	60.0	30.0	15.0	5.0	5.0	5.0
	運搬・清掃・包装等の仕事	274	53.3	46.8	28.5	13.9	2.9	1.1	0.4
	その他の仕事	382	45.8	54.1	30.1	13.9	7.3	1.8	1.0

(注) 従事している仕事の中で、30件未満の仕事は分析から除外してある。

こうした現在の勤務先での勤務年数について、第1に、性別にみると、男性では、「5年以上10年未満」、これに対して、女性では、「10年以上15年未満」、が多くなっている。第2に、年齢別にみると、年齢が高くなるほど、勤務年数が「10年以上」、これに対して、年齢が低くなるほど、勤務年数が「5年以上10年未満」、が多くなっている。

第3に、従事している仕事別にみると、管理的な仕事に従事している者、事務的な仕事に従事している者及び販売の仕事に従事している者で、勤務年数が「10年以上」、これに対して、保安の仕事に従事している者及び輸送・機械運転の仕事に従事している者で、「5年以上10年未満」、が多くなっている。

平均的な週の労働時間（残業時間含む）は「20時間以上30時間未満」が26.8%、「30時間以上40時間未満」が29.7%、「40時間以上50時間未満」が36.1%、「50時間以上」が7.4%であり、「20時間以上40時間未満」が約6割、「40時間以上」が約4割を占めている。平均すると、35.4時間になる（図表2を参照）。

こうした平均的な週の労働時間（残業時間含む）について、第1に、性別にみると、男性は女性と比較して、労働時間が長くなっている。第2に、年齢別にみると、年齢に関係なく、労働時間はほぼ同じである。第3に、従事している仕事別にみると、管理的な仕事に従事している者、保安の仕事に従事している者及び輸送・機械運転の仕事に従事している者で、労働時間が長く、これに対して、事務的な仕事に従事している者、販売の仕事に従事している者及びサービスの仕事に従事している者で、労働時間が短くなっている。第4に、現在の勤務先での勤務年数別にみると、勤務年数に関係なく、労働時間はほぼ同じである。

図表 2 平均的な週の労働時間（残業時間含む）

(左段：件数、右段：行%)

	調査数	20時間以上40時間未満			40時間以上			平均（時間）	標準偏差	
		20時間以上30時間未満	30時間以上40時間未満	40時間以上	40時間以上50時間未満	50時間以上				
全体	4113	56.5	26.8	29.7	43.5	36.1	7.4	35.4	9.87	
性別	男性	1001	26.1	7.7	18.4	73.9	55.9	18.0	41.5	9.33
	女性	3112	66.4	33.0	33.4	33.7	29.7	4.0	33.4	9.20
年齢	40～44歳	1045	55.4	24.9	30.5	44.6	36.4	8.2	35.8	10.2
	45～49歳	1210	56.9	26.0	30.9	43.1	36.7	6.4	35.3	9.39
	50～54歳	1003	59.3	30.6	28.7	40.7	33.5	7.2	34.6	9.91
	55～59歳	855	54.2	26.0	28.2	45.9	37.8	8.1	36.1	9.93
従事している仕事	管理的な仕事	42	19.1	4.8	14.3	80.9	59.5	21.4	42.2	7.91
	専門的・技術的な仕事	254	50.4	20.1	30.3	49.6	40.9	8.7	36.6	8.89
	事務的な仕事	1101	61.0	26.8	34.2	39.1	34.7	4.4	34.8	8.72
	販売の仕事	815	68.3	32.1	36.2	31.6	28.3	3.3	33.3	9.37
	サービスの仕事	613	58.3	33.0	25.3	41.8	32.5	9.3	34.6	10.9
	保安の仕事	57	24.6	5.3	19.3	75.4	56.1	19.3	42.9	10.0
	生産工程の仕事	476	45.0	20.4	24.6	55.0	44.3	10.7	37.6	9.25
	輸送・機械運転の仕事	79	26.6	6.3	20.3	73.5	53.2	20.3	41.9	9.27
	建設・採掘の仕事	20	25.0	10.0	15.0	75.0	50.0	25.0	43.1	12.5
	運搬・清掃・包装等の仕事	274	49.7	27.4	22.3	50.4	38.7	11.7	36.4	10.7
その他の仕事	382	56.0	28.5	27.5	44.0	36.9	7.1	35.3	10.9	
現在の勤務先での勤務年数	5年以上10年未満	1890	56.8	28.0	28.8	43.2	35.4	7.7	35.1	9.84
	10年以上	2223	56.3	25.8	30.5	43.7	36.6	7.2	35.6	9.90

(注) 従事している仕事の中で、30件未満の仕事は分析から除外してある。

## ②回答者の属性

有効回答数は男性 1,001 名 (24.3%)、女性 3,112 名 (75.7%) となった。年齢別構成は、「40～44歳」が 25.4%、「45～49歳」が 29.4%、「50～54歳」が 24.4%、「55～59歳」が 20.8%であり、40歳代後半層が多く、他方、50歳代後半層が少なくなっている。また、50歳代後半層は女性よりも男性が多くを占めている。

最終学歴は、「高校卒」が 45.0%を占め、残りは「大学卒」(20.2%)、「短期大学卒・高等専門学校卒」(18.7%)、「専修学校(専門課程)卒」(13.0%)が多くなっている。

主な収入源は、「あなた自身の収入」が 50.6%を占め、残りは、「配偶者の収入」が 41.0%を占め最も多く、次いで、「配偶者以外の世帯員の収入」(7.8%)、「その他」(0.5%)がこれに続いている。